

■ 株主優待のご案内 ■



当社オリジナルアニメキャラクターQUO カード

3月末日現在の株主様

- 1,000株 以上保有の株主様 ▶ 1,000円分を進呈
- 5,000株 以上保有の株主様 ▶ 2,000円分を進呈
- 10,000株 以上保有の株主様 ▶ 3,000円分を進呈

9月末日現在の株主様

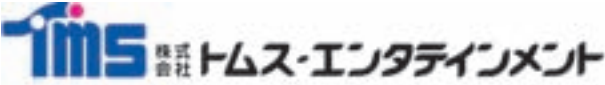
- 1,000株 以上保有の株主様 ▶ 500円分を進呈
- 5,000株 以上保有の株主様 ▶ 1,000円分を進呈
- 10,000株 以上保有の株主様 ▶ 1,500円分を進呈



それいけ!アンパンマン©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

第62期 株主通信

平成19年4月 1 日から
平成20年3月31日まで



ホームページアドレス : <http://www.tms-e.co.jp/>
〒160-0023 東京都新宿区西新宿三丁目2番4号
TEL : 03-5325-9111 (代表)

世界中のあらゆる人々に
夢と感動あふれるエンタテインメントを提供し、
豊かな社会の実現と文化の創造に貢献することを
基本理念としております。



ご挨拶

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。このたび、代表取締役社長に就任いたしました、岡村秀樹でございます。平素より当社グループ事業へのご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

ここに当社グループの第62期（平成20年3月期）における営業のご報告をお届けするとともに、当社グループ事業の特色および今後の事業展開についてご説明させていただきました。ご高覧いただければ誠に幸いに存じます。

平成20年6月
代表取締役社長 岡村 秀樹

C O N T E N T S

ご挨拶	01
トップインタビュー	02
アニメーション事業	05
アミューズメント事業	09
連結業績ハイライト	10
財務諸表	11
会社概要	13
株式情報／株主メモ	14

トップインタビュー Top Interview

業績の回復とともに 成長軌道への移行を目指して努力してまいります。

Q1 トムス・エンタテインメントの事業の全体像と特色についてお聞かせください。

当社グループは、現在、アニメーション事業とアミューズメント事業の2つを基軸とするエンタテインメントビジネスを展開しており、売上高の約7割をアニメーション事業が占めています。

アニメーション事業では、テレビ番組、劇場映画、オリジナルビデオなどアニメーション作品の企画・制作・販売・配給および輸出を行っています。定番作品を含めて年間16～19作品を制作しています。さらに、当社グループでは、これらの作品をコンテンツ資産として活かし、国内および海外において、テレビでの再放送、ビデオグラム等のライセンス収入や、キャラクターの商品化、コンテンツ配信等による権利収入を得ています。

「それいけ!アンパンマン」「名探偵コナン」「ルパン三世」といった作品に代表される当社グループのアニメーションは、幼児を含む幅広い世代に受け入れられるわかりやすさと、高いクオリティの維持を制作上の特色としています。また、ストーリーアニメの制作に強く、作品が持つ物語の魅力をコンテンツ資産としての価値につなげています。

一方、アミューズメント事業では、多種多様なゲーム機を取り揃えたアミューズメント施設の企画・運営を行い、都市

型・郊外型の2スタイルで、全国に24店舗（当期末現在）を展開しています。

Q2 現在のアニメーション業界・アミューズメント業界の事業環境をお聞かせください。

アニメーション市場においては、UHF局やBS・CS局での放送が増加するなど、作品の露出先が多岐にわたる傾向にあり、またインターネットで視聴するスタイルが拡大し、ネットワーク経由でコンテンツを提供する事業分野は拡大基調にあります。

さらに米国有カメディアグループが日本のアニメーション制作に出資する動きが広がりを見せており、海外を視野に入れた施策の重要性が増しています。

アミューズメント業界における施設運営関連の事業環境としては、市場全体の規模は増加傾向を維持しているものの、ロードサイドに立地する郊外型店舗は苦戦を強いられており、各社とも、ショッピングセンターなど他の商業施設との併設によって集客を確保するといった出店戦略を展開しています。また、導入するゲーム機が高額化していることから、店舗運営コストが上昇しており、業界大手の中にも店舗数削減の動きが広がっています。

Q3 当期(平成20年3月期)における各事業の取り組みと、その成果はいかがでしたか？

アニメーション制作においては、ライセンスによる収益拡大が期待できる作品づくりに向けて、企画力の強化を図りつつ、放送枠の維持・確保に努めました。当期は、前期と比較して3本増の19作品の制作を行いました。劇場映画作品本数の減少により、減収となりました。

また、商品化権事業およびコンテンツ配信による販売収入については順調に拡大し、売上高が大幅に伸びました。しかしながら、国内外のビデオグラム販売の低迷等により、トータルでは減収減益を余儀なくされました。

一方、アミューズメント事業においては、従来の拡大路線から収益確保の重視に方針転換しました。当期は、1店舗の新規出店と不採算店等3店舗の閉鎖を行うとともに、



既存店のリニューアルを実施した結果、利益率の改善を果たし、減収ながら増益の結果となりました。

Q4 アミューズメント事業の譲渡についてご説明願います。

当社は、平成20年5月9日の取締役会において、アミューズメント事業を株式会社ゲオに譲渡することに関する基本合意書を締結することを決議し、5月23日の取締役会において、最終契約の締結を決議いたしました。

当社はこれまで、アニメーション事業とアミューズメント事業を通じ、エンタテインメント企業として、積極的な営業展開を実施してまいりました。また、アニメーション事業とアミューズメント事業を同時に営むことで、より一層のシナジー効果を期待し、経営を続けてまいりました。

しかしながら、市場環境の変化および競争の激化等により、当社が今後更なる成長を実現するためには、アニメーション事業へ経営資源を集中させ、経営基盤の強化と企業価値の増大を図る必要があると考え、アミューズメント事業を株式会社ゲオに譲渡することが最善であるとの判断に至りました。

事業譲渡の時期につきましては、10月1日を予定しております。

Q5 今後の事業展開についてご説明願います。

先ほどご説明しましたとおり、当社はアミューズメント事業を株式会社ゲオに譲渡します。このため、平成21年3月期の上期においてはアニメーション事業とアミューズメント事業の2つを展開し、下期以降はアニメーション事業へ経営資源を集中し、事業を展開してまいります。

アニメーション事業においては、品質優位の強みを活かし、テレビ番組、劇場映画、オリジナルビデオ、コンテンツ配信など、露出先の拡大を積極的に進め、海外展開や商品化につながる作品づくりに取り組んでいきます。海外展開においては、カナダの企業と共同製作している作品「爆丸バトルブローラーズ」が、現在アメリカおよびカナダ、また韓国においても大人気を獲得しているといった手応えもあり、今後もマスマーケットである男児向け作品の共同製作を進めていく考えです。また、コンテンツ配信については、保有する多彩なアニメーション作品を様々なネットワークメディアに向けて展開していきます。

アミューズメント事業の上期における事業展開について、店舗開発に関しましては、今年4月、当社グループ初のボウリング施設「AG BOWL」を茨城県石岡市にオープンいたしました。

店舗運営に関しましては、社員教育や店舗間の連携を強化し、また、イベントの開催やディスプレイの演出、人気ゲーム機器の導入など、引き続きお客様のニーズにあわせたサービスの向上を図ってまいります。



Q6 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

厳しい事業環境の中、当社グループでは業績の拡大に向けて懸命に取り組んでまいりましたが、当期決算については大幅な減益という結果となり、株主の皆様にご多大なご心配をお掛けしましたこととお詫び申し上げます。平成21年3月期以降における業績回復とともに成長軌道への移行を目指し、全社一丸となって努力してまいります。

なお、当期の配当につきましては、1株につき7円50銭の期末配当を実施させていただきました。

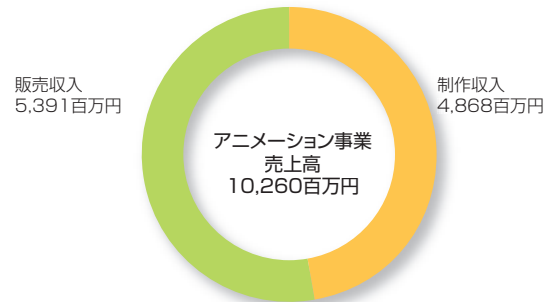
株主の皆様におかれましては、引き続き当社グループ事業へのご理解をいただくとともに、長期的なご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

営業概況

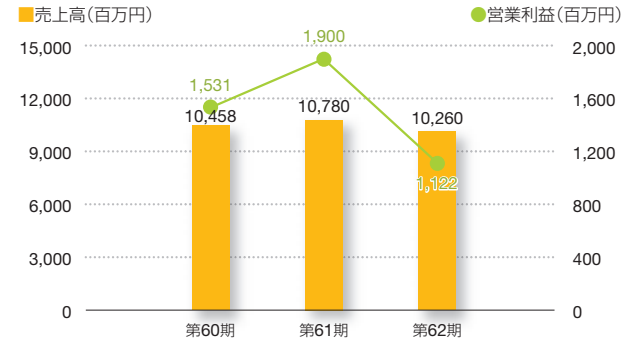
アニメーション事業全体の売上高は102億6千万円と、前期比4.8%の減収となりました。制作収入の売上高は48億6千8百万円と前期比2.7%の減収、販売収入の売上高は53億9千1百万円と前期比6.7%の減収となりました。

営業利益※につきましては、11億2千2百万円と前期比40.9%の大幅な減益となりました。

アニメーション事業制作収入・販売収入比率



アニメーション事業売上高・営業利益※の推移



※本社費配賦前の営業利益

制作収入 当期のポイント

1 市場ではアニメーション作品の放送枠は多岐にわたる

2 TVシリーズや劇場映画など19作品380話を制作

3 劇場制作本数の減少等により、制作収入は減少

ポイントの解説

- 市場全体の動きとして、地上波TVでのアニメ放送総本数は減少気味ですが、子供向け、マニア向けなど視聴者層の多様化に合わせ地上波キー局、準キー局、UHF局、BS・CS局向けと放送枠は多岐にわたっています。
- 長期にわたり継続中の人気作品「それいけ!アンパンマン」「名探偵コナン」に、TVシリーズ「のらみみ」「まめうしくん」「全カウサギ」、オリジナルビデオアニメーション「ルパン三世 GREEN vs RED」などを加えた計19作品を制作しました。
- TVシリーズ制作本数は増加したものの劇場制作本数が減少したことなどにより、制作収入全体の売上高は48億6千8百万円となり、前期比2.7%の減収となりました。



「それいけ!アンパンマン シャボン玉のブルン」
テレビシリーズは放送開始以来20年目に入りました。毎年夏休みに公開される劇場版作品も大好評です。
© やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV
© やなせたかし/アンパンマン製作委員会2007



「全カウサギ」
全カウサギたちの日常を描いた作品。UHF局のキッズ&ファミリー向け番組「ちびアニ劇場」にて放送中。
©イケタケイ/メディアファクトリー・全カウサギ製作委員会

販売収入 当期のポイント

1 商品化権事業においてはアンパンマン関連商品が好調

2 コンテンツ配信事業で前期を大幅に上回る伸び

3 国内外ビデオグラム販売市場の低迷などにより、販売収入は減少

ポイントの解説

- 「それいけ!アンパンマン」「名探偵コナン」「ルパン三世」は、番組販売・海外販売・ビデオグラム事業等、ライセンス収入の柱となっています。商品化権事業におきましては、アンパンマン関連商品が子供向けブランドとしてより一層の定着が進んだことなどが寄与し、前期を大幅に上回る結果となりました。
- コンテンツ配信事業につきましては、ブロードバンド配信におけるブランドライセンス販売がインターネット市場の拡大に乗じて増加し、前期を大幅に上回る伸びを示しました。
- 国内ビデオグラム販売市場の低迷および、米国をはじめとする海外ビデオグラム販売市場の低迷、また海外市場に適したヒット作品にめぐまれなかったことなどに影響を大きく受けました。商品化権およびネットワークコンテンツ事業収入の増加があったものの、販売収入全体の売上高は53億9千1百万円となり、前期比6.7%の減収となりました。



「ぶるるんっ! しずくちゃん あはっ☆」
多彩なキャラクターが登場する児童向けファンタジー作品。食品や雑貨など幅広い分野で商品化されています。
©クーリア/しずくちゃんプロジェクト・テレビ東京



「爆丸 バトルブローラーズ」
カナダの企業を含めた共同プロジェクトにより制作。アクションカードゲームをベースとした作品で、国内外で玩具販売が展開されています。
©SEGA TOYS/SPIN MASTER /BAKUGAN PROJECT・テレビ東京・電通

トピックス

40周年を迎えた「ルパン三世」の展開

昨年、ルパン三世は登場から40周年を迎えました。これを記念して、当社は様々な企画を進めており、昨年は毎年恒例のテレビスペシャルのほか、コンテンツ配信サービスの拡充に着手しており、今年4月にはOVA（オリジナルビデオアニメーション）「ルパン三世 GREEN vs RED」を発売いたしました。

また、今年1月に開催されたKDDI株式会社主催によるコンテンツアワードにおいては、当社が運営するルパン三世公式電子コミックサイト「ルパン THE COMIC」が“ケータイトレンド賞”を受賞いたしました。今後ともより多くの方々からの支持を集められるよう、作品の一層の普及に向けて邁進してまいります。



原作:モンキー・パンチ
©TMS・NTV・VAP

「名探偵コナン」2年連続日本アカデミー賞優秀アニメーション作品賞受賞

毎年恒例となった劇場版名探偵コナンシリーズですが、第10作目である「名探偵コナン 探偵たちの鎮魂歌（レクイエム）」に続いて、昨年公開した第11作目「名探偵コナン 紺碧の棺（ジョリー・ロジャー）」が、日本アカデミー賞優秀アニメーション作品賞を受賞し、2年連続受賞という快挙を達成いたしました。

また、今年4月19日には、最新作「名探偵コナン 戦慄の楽譜（フルスコア）」が公開されました。今回のテーマは“音楽”で、本作も、子供から大人まで幅広い年代の方々に楽しんでいただける内容となっています。



©2007 青山剛昌/小学館・読売テレビ・日本テレビ・小学館
プロダクション・東宝・TMS
©2008 青山剛昌/名探偵コナン製作委員会

「横浜アンパンマンこどもミュージアム」来館者数100万人突破

昨年4月20日にグランドオープンした『横浜アンパンマンこどもミュージアム』では、今年4月4日、開業1周年を前にして来館者数100万人を突破しました。これは、初年度計画における目標来館者数70万人を大きく上回る結果となりました。

当社はこれからも、アンパンマンとその仲間たちの世界を応援してまいります。



©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

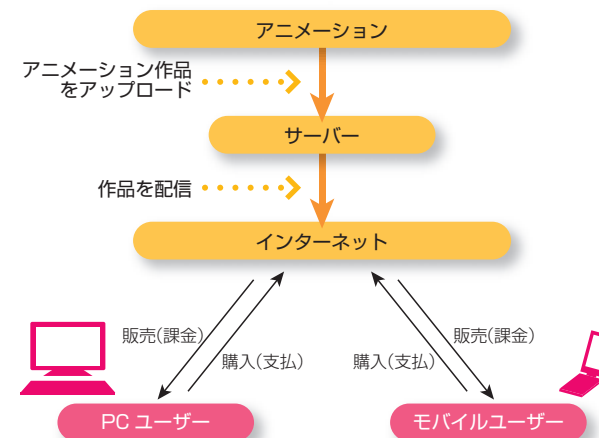
特集 コンテンツ配信サービスについて

近年、アニメーション作品を視聴するスタイルは多様化しており、テレビ放送やビデオだけでなく、コンテンツ配信サービスによってアニメーション作品を楽しむ視聴者が増えています。通信機器の性能やネットワークインフラが向上され続けており、コンテンツ配信サービスの利用は、今後ますます拡大していくことが予想されます。

コンテンツ配信サービスとは？

コンテンツ配信サービスとは、インターネットを経由してアニメーション作品などをユーザーの元へ送信するサービスのことです。このサービスを利用するためには、インターネットに接続する環境を準備する必要がありますが、操作方法はホームページを見るのと同様ですので、手軽にアニメーションの動画などを楽しむことができます。

アニメーション作品の多くは、好きな時間に好きな作品を楽しめるビデオ・オン・デマンド※方式によって配信されています。また最近ではパソコンだけでなく、携帯電話向けのサービスも拡大しており、利用者も増加しています。



※用語解説

ビデオ・オン・デマンド（Video On Demand/VOD）

ビデオ・オン・デマンドとは、利用者の要求に応じて映像コンテンツを配信するシステムのことを言います。電子レンタルビデオと表現されることもあり、ユーザーが見たいときにいつでも、インターネットにつながる環境であれば好きな場所で（レンタルビデオ店などに行かなくても）映像コンテンツを見ることができる、といった点が特徴です。

ネットワークコンテンツ事業について

当社のネットワークコンテンツ事業におきましても、インターネットを通じて作品を視聴者に提供するサービスを展開しており、携帯電話向けの「モバイル配信サービス」とパソコン向けの「ブロードバンド映像配信サービス」があります。以下はその一例です。

ルパン THE COMIC



原作モンキー・パンチ©TMS

アニメコミックと原作コミックがいつでも携帯電話で読めます。

東京ムービーONLINE <http://www.tms-e.com/online/>

スポーツ、アクション、SF、名作など、当社の様々な作品をパソコンで楽しめます。

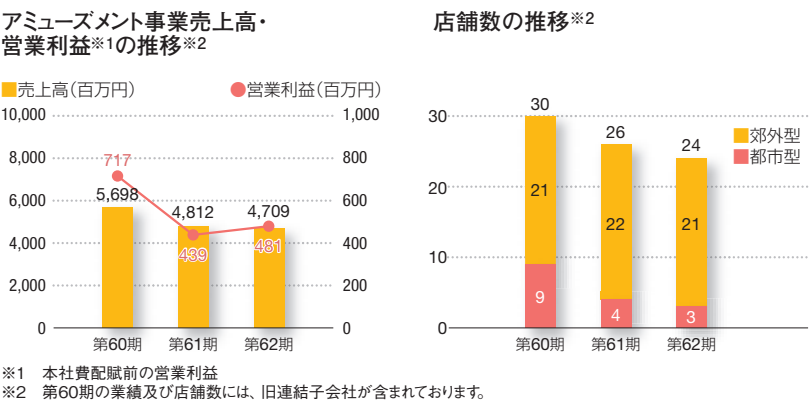
QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

アミューズメント事業 Amusement

営業概況

アミューズメント事業全体の売上高は、47億9百万円と前期比2.1%の減収となりました。

営業利益^{※1}につきましては、4億8千1百万円と前期比9.5%増益となりました。



当期のポイント

1 市場では施設開発・運営にかかるコストが増加傾向

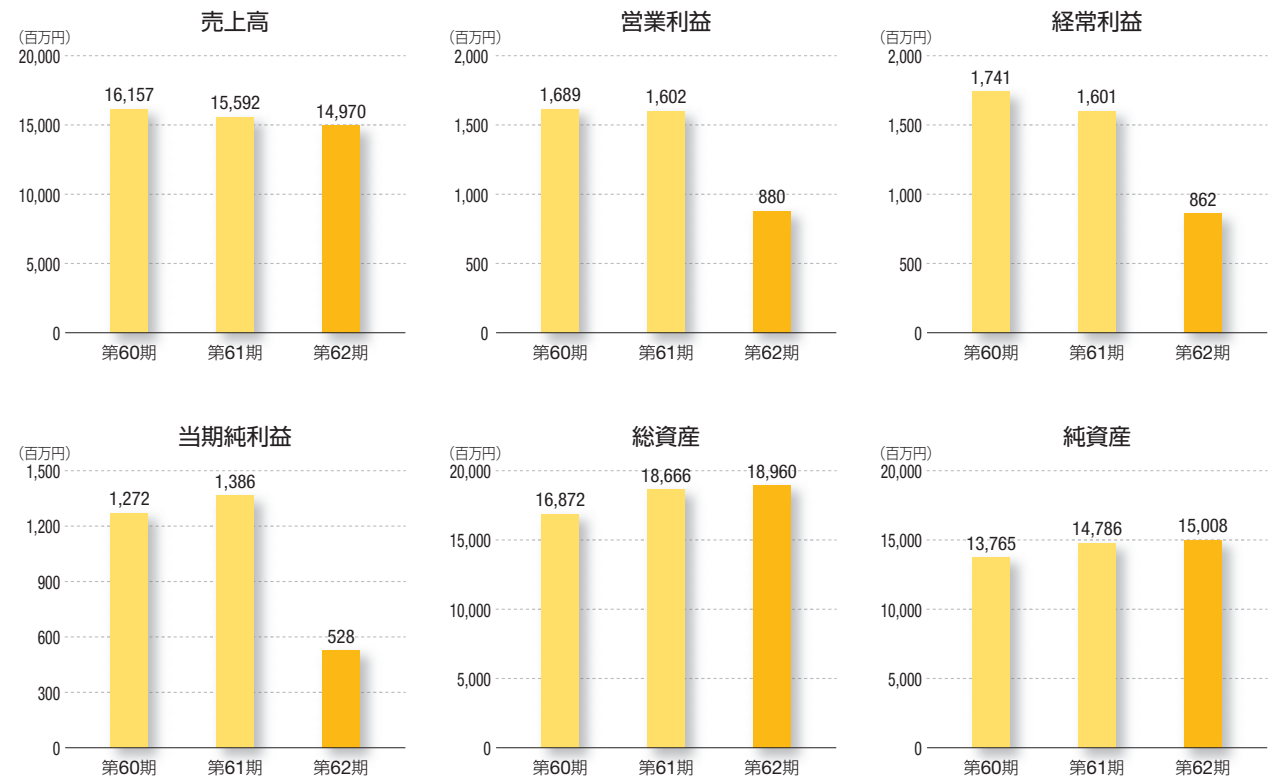
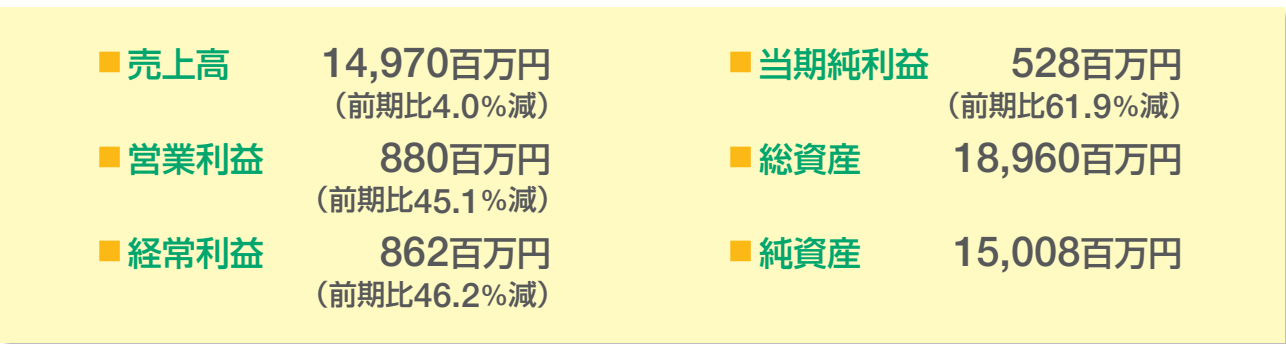
2 新規出店を絞り込み、既存店のリニューアルを実施

3 不採算店舗の閉鎖、リニューアルが利益増に貢献

ポイントの解説

- 施設運営市場全体の傾向として、ゲーム機の大型化・高額化や施設の複合化・大型化が進み、施設運営に掛かるコスト増により中小規模の施設が淘汰され、店舗数は減少傾向にあります。
- 当社は、個々の店舗の採算性を重視し、新規出店を絞り込み、収益に結びつく機械への投資を行い、既存の店舗については投資効果の見込める店舗に対し積極的にリニューアルを実施いたしました。当期においては、1店舗(笠間店)の新規開設を実施し、不採算店2店舗(つくば店・大垣店)、賃借期間満了となった1店舗(栄店)の計3店舗を閉鎖いたしました。これによりまして平成20年3月期末現在のアミューズメント施設店舗数は24店舗となっております。
- 営業利益^{※1}につきましては、不採算店舗の閉鎖の効果、リニューアルを含む個々の店舗の収益性を重視し店舗運営力の強化を行った効果により、4億8千1百万円と前期比9.5%増益となりました。

連結業績ハイライト Financial Highlights



連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)(単位:百万円)

科目	当連結会計年度 平成20年3月31日現在	前連結会計年度 平成19年3月31日現在
資 産 の 部		
流動資産	12,585	13,048
固定資産	6,375	5,617
有形固定資産	3,217	3,003
建物及び構築物	1,686	1,747
土地	797	797
その他	734	458
無形固定資産	206	168
投資その他の資産	2,950	2,445
資産合計	18,960	18,666
負 債 の 部		
流動負債	3,481	3,401
固定負債	470	477
負債合計	3,952	3,879
純 資 産 の 部		
株主資本	15,056	14,886
資本金	8,816	8,816
資本剰余金	1,806	1,806
利益剰余金	5,398	5,152
自己株式	△965	△889
評価・換算差額等	△109	△125
新株予約権	62	25
純資産合計	15,008	14,786
負債純資産合計	18,960	18,666

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書(要旨)(単位:百万円)

科目	当連結会計年度 平成19年4月 1日から 平成20年3月31日まで	前連結会計年度 平成18年4月 1日から 平成19年3月31日まで
売上高	14,970	15,592
売上原価	12,005	11,856
売上総利益	2,964	3,735
販売費及び一般管理費	2,084	2,133
営業利益	880	1,602
営業外収益	94	91
営業外費用	112	91
経常利益	862	1,601
特別利益	155	75
特別損失	154	337
税金等調整前当期純利益	862	1,339
法人税、住民税及び事業税	444	69
法人税等調整額	△110	△116
当期純利益	528	1,386

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)(単位:百万円)

科目	当連結会計年度 平成19年4月 1日から 平成20年3月31日まで	前連結会計年度 平成18年4月 1日から 平成19年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,068	385
投資活動によるキャッシュ・フロー	△861	△2,175
財務活動によるキャッシュ・フロー	△377	△404
現金及び現金同等物に係る換算差額	△13	△19
現金及び現金同等物の減少額	△183	△2,215
現金及び現金同等物の期首残高	5,035	7,250
新規連結に伴う現金及び同等物増加高	70	—
現金及び現金同等物の期末残高	4,921	5,035

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結株主資本等変動計算書 当連結会計年度(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成19年3月31日残高	8,816	1,806	5,152	△889	14,886	14	△140	△125	25	14,786
連結会計年度中の変動額										
連結子会社増加に伴う剰余金の増加額			35		35					35
剰余金の配当			△319		△319					△319
当期純利益			528		528					528
自己株式の取得				△76	△76					△76
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						15	0	15	36	52
連結会計年度中の変動額合計	—	—	245	△76	169	15	0	15	36	222
平成20年3月31日残高	8,816	1,806	5,398	△965	15,056	30	△140	△109	62	15,008

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

個別財務諸表

個別貸借対照表(要旨)(単位:百万円)

科目	当事業年度 平成20年3月31日現在	前事業年度 平成19年3月31日現在
資 産 の 部		
流動資産	11,953	12,660
固定資産	6,594	5,816
資産合計	18,547	18,476
負 債 の 部		
流動負債	3,312	3,409
固定負債	364	366
負債合計	3,677	3,775
純 資 産 の 部		
株主資本	14,777	14,660
資本金	8,816	8,816
資本剰余金	1,806	1,806
利益剰余金	5,119	4,926
自己株式	△965	△889
評価・換算差額等	30	14
新株予約権	62	25
純資産合計	14,870	14,700
負債純資産合計	18,547	18,476

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

個別損益計算書(要旨)(単位:百万円)

科目	当事業年度 平成19年4月 1日から 平成20年3月31日まで	前事業年度 平成18年4月 1日から 平成19年3月31日まで
売上高	14,589	15,192
売上原価	11,741	11,590
売上総利益	2,847	3,601
販売費及び一般管理費	2,028	2,093
営業利益	819	1,508
営業外収益	125	103
営業外費用	105	70
経常利益	839	1,541
特別利益	155	62
特別損失	154	337
税引前当期純利益	840	1,266
法人税、住民税及び事業税	436	47
法人税等調整額	△108	166
当期純利益	512	1,052

注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

会社概要 Corporate Profile

(平成20年3月31日現在)

会社概要

商号	株式会社 トムス・エンタテインメント
設立	昭和21年10月
資本金	88億1,686万円 (名古屋証券取引所市場第二部上場)
従業員数	306名(連結)
事業内容	アニメーション事業 アニメーション作品の企画・制作・販売・配給および輸出 アミューズメント事業 アミューズメント施設の企画・開発・運営
事業所	本社(管理本部、東京ムービー事業本部、アミューズメント施設事業本部) 〒160-0023 東京都新宿区西新宿三丁目2番4号 TEL:03-5325-9111 FAX:03-5325-1511 東京ムービー事業本部制作スタジオ 〒164-0002 東京都中野区上高田五丁目39番1号 TEL:03-3319-1131 FAX:03-3319-1140
主な子会社	株式会社 テレコム・アニメーションフィルム 株式会社 トムス・フォト 株式会社 トムス・ミュージック TMS ENTERTAINMENT USA, INC. TMS MUSIC (UK) LTD. TMS MUSIC (HK) LTD.

取締役および監査役

取締役会長	里見 治
取締役社長(代表取締役)	古賀 督徳
常務取締役(代表取締役)	松元 理人
常務取締役	山田 克博
取締役	吉田 諭司
取締役	鶴谷 誠
取締役	岡村 秀樹
取締役	西田 浩
常勤監査役	升森 長
監査役	平川 壽男
監査役	田中 克郎
監査役	上瀧 雄一郎

※平成20年6月17日付をもって、岡村秀樹が代表取締役社長に就任いたします。

株式情報／株主メモ Stock Information

(平成20年3月31日現在)

株式の状況

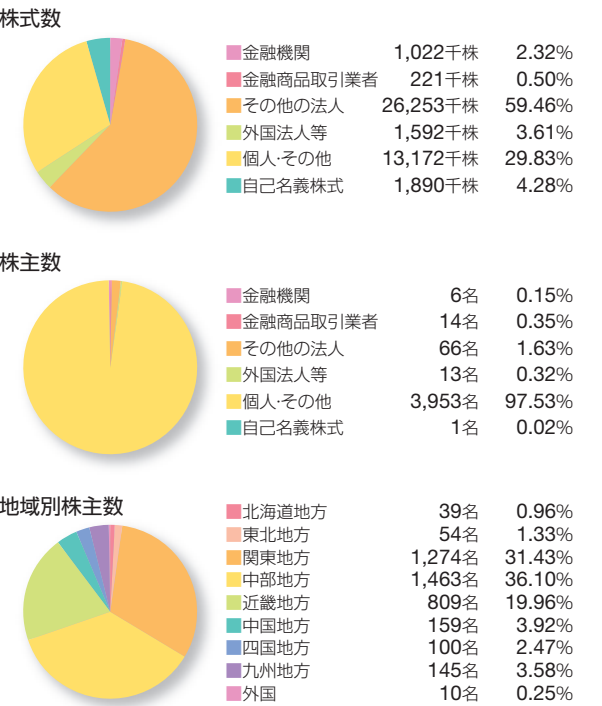
発行可能株式総数	121,000,000株
発行済株式の総数	44,153,101株
株主数	4,053名

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
セガサミーホールディングス(株)	23,549	55.72
日本テレビ放送網(株)	2,000	4.73
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー サブ アカウント アメリカン クライアント	777	1.83
シービーエヌワイチャールズ シュワップエフビーオーカスタマー	535	1.26
中部証券金融(株)	269	0.63
野村信託銀行(株)(投信口)	238	0.56
柴田 渉	208	0.49
代永 衛	203	0.48
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	187	0.44
田井 謙吉	182	0.43

※当社は、自己株式1,890,768株を保有しておりますが、上記の大株主からは除いております。また出資比率は、自己株式を控除して計算しております。

株式分布状況



株主メモ

上場取引所	名古屋証券取引所市場第二部	株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主総会	毎年6月	同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話0120-232-711(通話料無料) URL http://www.tr.mufg.jp/daikou/
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日	同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告方法	電子公告にて当社のホームページ (http://www.tms-e.co.jp/)に掲載いたします。ただし、 やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。		